



## 平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年10月4日

上場取引所 東 名

上場会社名 株式会社 あみやき亭  
コード番号 2753 URL <http://www.amiyakitei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 啓介

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 千々和 康

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日

TEL 0568-32-8800

平成22年12月9日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	11,080	—	1,140	—	1,158	—	638	—
22年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	9,327.06	—
22年3月期第2四半期	—	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	13,729	11,035	80.4	161,126.52
22年3月期	13,352	10,500	78.6	153,315.82

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 11,035百万円 22年3月期 10,500百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	1,500.00	—	1,500.00	3,000.00
23年3月期	—	1,500.00	—	1,500.00	3,000.00
23年3月期 (予想)	—	—	—	1,500.00	3,000.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,500	22.4	2,030	10.7	2,100	10.7	1,042	2.8	15,214.34

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無  
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）  
(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無  
(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

P3「2.その他の情報(3)会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要」をご参照下さい。

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期2Q 68,488株 22年3月期 68,488株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 一株 22年3月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期2Q 68,488株 22年3月期2Q 68,488株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1)本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項について3ページ【当四半期の連結業績等に関する定性的情報】(3)連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

(2)平成22年3月期第3四半期末より、連結決算を開始した為、前年実績については記載しておりません。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(第2四半期連結累計期間) .....	6
(第2四半期連結会計期間) .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、中国やインド等の新興国を中心とした輸出の増加、企業のコスト削減や在庫調整効果により、企業の景況感は緩やかな回復基調となりましたが、四半期後半には、世界的な金融不安を背景に、多くの輸出企業の予測を上回る水準にまで円高は進行し、企業業績の下振れ懸念及び株式市場の低迷、エコカー補助金の景気対策の終了などの経済面の不安要因を背景に、先行きはさらに不透明な状況となっております。

外食産業においては、消費者の生活防衛意識による低価格志向や選別化の傾向が一段と強まり、低価格帯商品の競争が激化するなど、引き続き厳しい状況が続いております。

このような環境の下、当社グループでは、「お客様一人一人に喜んでいただける」ために「食肉のプロ集団」の強みを活かした仕入食肉の検品体制の強化及び選別化の徹底を行い、より高い品質の国産牛肉などを「価格据え置き」のままお客様に提供することに努め、また、パート・アルバイトの「多能工化」を通じた接客・サービスの一層の向上を図るなど既存店強化対策を徹底して行ってまいりました。

平成21年11月に子会社化いたしました株式会社スエヒロレストランシステムにおきましては、引き続き従業員の意識改革を行いつつ「スエヒロ復活」の第2ステージであります店舗リニューアル及びメニュー見直しに着手しております。

当第2四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、「あみやき亭」1店舗（大垣店）、「美濃路」1店舗（関店）「スエヒロ館」1店舗（立川店）を新規出店しましたが、「かるび家」2店舗（八王子店、西川口店）、居酒屋「楽市」1店舗（大泉学園店）、牛しゃぶ「すえひろ」1店舗（銀座コリドー店）を退店したため171店舗となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高11,080百万円、営業利益1,140百万円、経常利益1,158百万円となりました。なお、平成22年3月期第3四半期末より、連結決算を開始した為、前年同期比は記載しておりません。

また、株式会社あみやき亭の単体の当第2四半期累計期間の業績は、売上高9,525百万円（前年同期比17.6%増）、営業利益1,095百万円（前年同期比29.3%増）、経常利益1,135百万円（前年同期比29.8%増）、四半期純利益596百万円（前年同期比25.1%増）と増収増益となり第2四半期累計期間では過去最高となりました。

#### <焼肉部門>

焼肉部門の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、2店舗（「かるび家」八王子店、西川口店）退店した結果、110店舗となりました。内訳はあみやき亭94店舗、かるび家13店舗、スエヒロ館3店舗であります。

当社が経営する「あみやき亭」では、品質の向上に徹底的にこだわり「お客様にとって満足度・価値感の高い商品」の提供に努め、既存店強化に努めてまいりました。

子会社株式会社スエヒロレストランシステムが経営する「かるび家」につきましては、日々発注・日々配送に伴う品質向上により商品力の強化を行ってまいりました。また、「スエヒロ館」につきましては、当社関東フードシステムより国産牛肉の提供を行い、「スエヒロ」ブランドに相応しい牛肉の提供を行っております。

以上の結果、焼肉部門の当第2四半期連結累計期間の売上高は8,499百万円となりました。

#### <焼鳥部門>

焼鳥部門の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、1店舗（美濃路関店）新規開店し、51店舗です。焼き鳥部門はすべて「元祖やきとり家美濃路」で展開しています。

焼鳥部門におきまして、焼き師認定制度を導入し、炭火で1本1本手焼きする「焼き」の技術向上に努めるとともに、「美味しくて、安い」焼鳥や釜めしの提供に努めてまいりました。

また、店舗運営向上策といたしまして、店長育成プログラムを刷新し、接客・サービスのレベル向上に向けた社員教育の取り組みを行ってまいりました。

以上の結果、焼鳥部門の当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,936百万円となりました。

#### <その他部門>

その他部門の当第2四半期連結会計期間末の店舗数は10店舗となりました。

内訳は、株式会社スエヒロレストランシステムが経営する、レストランの「SUEHIRO」5店舗、居酒屋「楽市」5店舗であります。

レストランの「SUEHIRO」につきましては、「食肉の専門集団」である当社グループの強みを活かした食肉の知識・カット技術により低価格の「国産牛ステーキ」「100%国産ハンバーグ」をはじめとしたメニュー開発により商品の品質向上を行ってまいりました。

また、居酒屋「楽市」につきましても、「大山鶏とまぐろ」を中心としたメニュー構成に代えるとともに商品の

品質向上やお客様の立場に立った接客・サービスの向上に努めてまいりました。

以上の結果、その他部門の当第2四半期連結累計期間の売上高は、640百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産額は、13,729百万円となり、前事業年度末と比較し376百万円増加しました。

負債総額は2,694百万円となり、前事業年度末と比較し158百万円減少いたしました。主な要因は未払金の減少であります。

純資産総額は、11,035百万円となり、前事業年度末と比較し534百万円増加いたしました。主な要因は利益剰余金の増加によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

第2四半期連結累計期間の業績予想との差異が生じましたが、平成22年4月9日に公表いたしました通期連結業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

詳細は、平成22年10月4日付「業績予想（平成23年3月期第2四半期連結累計期間）との差異に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益、経常利益はそれぞれ8百万円減少しており、税金等調整前四半期純利益は98百万円減少しております。

また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は224百万円であります。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,537	5,304
預け金	41	83
売掛金	3	4
商品及び製品	42	33
原材料及び貯蔵品	42	59
繰延税金資産	145	184
未取還付法人税等	73	80
その他	237	208
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	6,123	5,958
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,351	4,103
構築物(純額)	355	367
機械及び装置(純額)	185	187
車両運搬具(純額)	6	6
工具、器具及び備品(純額)	211	224
土地	489	489
建設仮勘定	9	17
有形固定資産合計	5,609	5,396
無形固定資産		
ソフトウェア	15	19
その他	47	48
無形固定資産合計	62	68
投資その他の資産		
投資有価証券	9	11
長期貸付金	249	259
繰延税金資産	193	149
差入保証金	1,065	1,108
その他	424	409
貸倒引当金	△9	△9
投資その他の資産合計	1,933	1,928
固定資産合計	7,605	7,393
資産合計	13,729	13,352

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	649	718
未払金及び未払費用	880	1,001
未払法人税等	498	597
引当金	157	212
その他	222	251
流動負債合計	2,408	2,781
固定負債		
資産除去債務	224	—
引当金	3	2
負ののれん	0	0
繰延税金負債	17	11
その他	39	57
固定負債合計	285	70
負債合計	2,694	2,852
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,473	2,473
資本剰余金	2,426	2,426
利益剰余金	6,137	5,601
株主資本合計	11,038	10,502
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3	△1
評価・換算差額等合計	△3	△1
純資産合計	11,035	10,500
負債純資産合計	13,729	13,352

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	11,080
売上原価	4,039
売上総利益	7,040
販売費及び一般管理費	5,900
営業利益	1,140
営業外収益	
受取利息	8
受取配当金	0
協賛金収入	5
その他	5
営業外収益合計	19
営業外費用	
その他	2
営業外費用合計	2
経常利益	1,158
特別利益	
受取保険金	2
店舗閉鎖損失引当金戻入額	7
特別利益合計	9
特別損失	
固定資産除却損	34
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	89
特別損失合計	123
税金等調整前四半期純利益	1,044
法人税、住民税及び事業税	477
法人税等調整額	2
法人税等還付税額	△73
法人税等合計	405
四半期純利益	638



(第2四半期連結会計期間)

(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	5,717
売上原価	2,046
売上総利益	3,670
販売費及び一般管理費	2,957
営業利益	713
営業外収益	
受取利息	4
受取配当金	0
協賛金収入	2
その他	2
営業外収益合計	9
営業外費用	
その他	0
営業外費用合計	0
経常利益	722
特別利益	
受取保険金	0
店舗閉鎖損失引当金戻入額	1
特別利益合計	1
特別損失	
特別損失合計	—
税金等調整前四半期純利益	723
法人税、住民税及び事業税	307
法人税等調整額	△22
法人税等還付税額	△17
法人税等合計	266
四半期純利益	456

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成22年4月1日  
至 平成22年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,044
減価償却費	347
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	89
引当金の増減額(△は減少)	△37
有形固定資産除却損	34
受取利息及び受取配当金	△8
売上債権の増減額(△は増加)	1
たな卸資産の増減額(△は増加)	8
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△24
仕入債務の増減額(△は減少)	△69
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△39
未払消費税等の増減額(△は減少)	△20
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△8
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	△20
その他	1
小計	1,297
利息及び配当金の受取額	8
法人税等の還付額	78
法人税等の支払額	△556
営業活動によるキャッシュ・フロー	828
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△3,500
定期預金の払戻による収入	3,500
有形固定資産の取得による支出	△547
無形固定資産の取得による支出	△0
差入保証金の差入による支出	△36
差入保証金の回収による収入	63
貸付けによる支出	△2
貸付金の回収による収入	12
その他	△22
投資活動によるキャッシュ・フロー	△533
財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の返済による支出	△1
配当金の支払額	△102
財務活動によるキャッシュ・フロー	△104
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	191
現金及び現金同等物の期首残高	1,888
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,079

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(開示の省略)

セグメント情報、その他の注記事項、個別情報、補足情報等は第2四半期決算短信における開示の必要性が大きくないと考えられるため開示を省略しております。